

なっちゃん隊 深掘りレポート Vol.12 十勝の開拓と馬

NHK朝ドラ「なつぞら」では、広瀬すずさん演じる主人公“なつ”が颯爽と馬を乗りこなしていましたね。十勝の開拓を支えた馬の歴史について、振興局なっちゃん隊が調べてみました。



なつが乗っていた馬“どさんこ”は、北海道生まれの人を指す呼び名としても定着していますが、もともとは北海道産の馬の品種です。開拓の際に大きな樹木の抜根などの作業に使われたほか、たくさんの荷物を背負わせることができたため、荷物の運搬にも大きく貢献しました。

その後、プラウなど洋式の農具が導入され、馬には農具を曳く力強さ（輓曳（ばんえい）力）がより求められるようになりました。十勝でもフランスなど海外から導入されたペルシュロン種などの大型種とどさんこの交配により、大型の農耕馬が生産され、活躍しました。今の“ばん馬”のルーツです。



十勝の馬の飼養頭数は、農耕馬だけでなく軍馬の生産振興も加わり、明治から昭和にかけて増加の一途をたどりました。戦争の影響で一時減少しましたが、戦後は農耕の主力として活躍し、なつが十勝に来た頃の昭和30年代初頭には、ピークの6万5千頭に達しました。

その後、トラクターの普及に伴い、馬の飼養頭数は急速に減少しますが、帯広市にある「ばんえい競馬」では、大きなソリをひくばん馬の力強い雄姿を見ることが出来ます。ぜひ足を運んでみてください。

